

青森県のりんごについて

青森県農林水産部りんご果樹課

1. 青森県の概要

「青森」という名前は、今から 400 年ほど前の江戸時代前期、当時、土地の漁師たちが漁を終えて港に帰るときに目印としていた「青い森」がその由来とされており、47 都道府県の中で唯一、名前に色の名を冠する県です。

位置は、本州最北端、日本海、津軽海峡、太平洋と 3 つの海に囲まれ、またホタテガイ養殖で有名な陸奥湾を擁し、県土の 66% を森林、16% を農地が占めており、豊富な農林水産資源に恵まれています。

気候は冷涼型で四季がはっきりしており、世界遺産に登録された白神山地（1993 年 12 月）や縄文遺跡群（2021 年 7 月）、十和田八幡平国立公園など豊かな自然に恵まれた全国一のりんご生産県です。

2. 本県のりんごの栽培面積

本県では、全国のりんご生産量の約 6 割が生産されており、栽培面積・生産量ともに日本一です。地域別栽培面積は、弘前市を中心とした中南地域が最も多く、県全体の約 66% を占めています。

3. 本県のりんごの生産量

青森りんごは、例年、44 万トン程度生産されていますが、令和 3 年産生産量は、夏季の少雨の影響により、415,700 トンと少なめでした。全国生産量の 63% を占めており、品種別生産割合では、「ふじ」が約 5 割、次いで「つがる」、「王林」、「ジョナゴールド」となっています。

表1. りんごの栽培面積（R4）及び生産量（R3）

	栽培面積	生産量
全国	36,300ha	661,900t
青森県	20,300ha	415,700t
青森県の割合	56%	63%

表2. 青森県の実産量の推移

	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
青森県	447,800t	415,900t	445,500t	409,800t	463,000t

表3 品種別生産割合（R4）

	計	ふじ	つがる	王林	ジョナゴールド
全国	661,900t	335,800t	72,200t	48,100t	43,200t
青森	415,700t	199,500t	41,100t	40,200t	35,200t

出展：令和4年果樹及び茶栽培面積（7月15日現在）（農林水産省）
令和3年産果樹生産出荷統計（農林水産省）

4. りんごづくり

青森県の実産者が正直にまじめに、一生懸命手塩にかけて育ててきた青森りんご。冬の整枝・せん定から秋の収穫まで、年間を通じてほとんどが手作業で、どれも「おいしいりんご」づくりには欠かせないものばかりです。

(1) 整枝・せん定（1月末～3月）

- ・整枝・せん定は一年の最初の仕事であり、りんご栽培では最も重要とされる技術です。樹の中まで日光が入るようにし、毎年よりりんごが実るように樹の形を整えます。
- ・せん定は、最も熟練を要する作業で、「千本の樹をせん定しなければ一人前になれない」とも言われています。

(2) 肥料施用 (4 月)

- ・人間と同じように、りんごも栄養が必要です。4 月に堆肥や肥料などを施用して栄養を与えます。
- ・肥料が過剰や不足にならないように、土壌診断(土の健康診断)をして適切な量を施用します。

(3) 薬剤散布 (4 月～8 月)

- ・病害虫からりんごを守るために行います。県の基準では果実がなつてからは 8 回程度、年間 11 回散布します。
- ・農薬は、安全に正しく使い、周辺環境にも配慮しながら散布しています。



スピードスプレーヤによる薬剤散布

(4) 授粉 (5 月)

- ・りんごの品種のほとんどは、同じ品種の花粉が付いても実がなりません。そのため、他の品種の花粉を付ける授粉作業が必要です。
- ・以前は、一つ一つの花に、人手によって花粉を付けていましたが、今ではマメコバチというハチの利用や機械による授粉が増えています。



マメコバチ

(5) 草刈り (5 月～9 月)

- ・りんご園では、土からの水分の蒸発や土壌の流失を防ぎつつ、有機物を補給するため、草を生やしています(草生栽培と言う)。
- ・しかし、草が伸びすぎるとりんご樹と水分を奪い合ったり、害虫などが発生したりするので、栽培期間内に 4～6 回程草刈りをします。
- ・草刈機には、肩にかけるコンパクトなタイプやゴーカートのような乗用タイプがあります。

(6) 摘果 (てきか: 実すぐり) (6 月～7 月)

- ・りんごは、1 つの株(花そう)に 5 つくらい

花が咲き、実を結びます。これら全部の果実をならせると、1 つの果実当たりの栄養が少なくなって小さなりんごにしかありません。翌年の花もできなくなってしまいます。

- ・そこで、3～5 株に 1 つだけ果実をならせ、あとはすべて取ってしまう摘果作業を行います。摘果することで大きくておいしいりんごができます。
- ・花の時期に不要な花を摘むことを「摘花(てきばな)」と言います。

(7) 袋かけ (6 月中旬～7 月上旬)

- ・昭和 30 年代までは、果実を病害虫の被害から守るために袋をかけたが、現在では、着色や貯蔵性をよくするために行っています。

(8) 袋はぎ (9 月)

- ・中～晩生種の場合、9 月中旬から下旬に袋をはぎ、果実に日光を当てます。

(9) 着色手入れ(葉つみ、玉まわし) (9 月～11 月)

- ・りんごは、果実全体に太陽の光が当たらないと色がきれいに着きません。
- ・そのため、果実に日影をつくる葉を 2～3 回に分けて摘み取る「葉つみ」作業や、色が着いていない部分を日向側に向ける「玉まわし」という作業を行います。下手な人が行くと、果実を回しすぎてりんごを落としてしまいます。
- ・このほかにも、新たに伸びてきた不要な枝を切る「徒長枝整理」や、大きくなったりんごの重さで枝が下がることを防ぐ「支柱入れ・枝吊り」といった作業もあります。

(10) 収穫

- ・1 年間大切に育てられたりんごは 8 月から収穫が始まります。りんごにキズが付かないよう一つ一つ丁寧に収穫します。



5. りんごの種類

りんごには、たくさんの品種があり、味はもちろ

ん大きさや色、形などさまざまです。世界では約15,000種、日本では約2,000種ありますが、うち、県内で主に栽培されているもの約50種、市場に主に出荷されているものは約40種となっています。

(1) 収穫時期と出荷時期

青森りんごは、8月から11月まで品種ごとに収穫されます。青森県では、収穫時期により次のように分類しています。

- ① 8月20日頃までに収穫するもの：極早生種
- ② 9月20日頃までに収穫するもの：早生種
- ③ 10月20日頃までに収穫するもの：中生種
- ④ 10月20日頃以降に収穫するもの：晩生種

(2) 県内で育成された主なりんごの品種紹介

県内では、試験場や民間により多くのりんご品種が育成されていますので、その一部をご紹介します。

① 極早生種

- ア 夏緑：(母親) きたかみ×(父親) メク10 (メク10：つがる×祝)
- ・収穫時期 8月上～中旬
 - ・青森県りんご試験場（現：地方独立行政法人（以下、(地独)）青森県産業技術センターりんご研究所）が育成し、昭和58年に品種登録されました。
 - ・150グラム程度で、色は黄緑色に薄く縞が入ります。
 - ・果肉はやや硬め、ち密で多汁です。



- イ 恋空：(母親) 67ー45 (あかね×レロ11) ×(父親) 夏緑
- ・収穫時期 8月中～下旬
 - ・青森県りんご試験場（現：(地独) 青森県産業技術センターりんご研究所）が育成し、平成16年に「あおり16」として品種登録され

ました。

- ・250グラム程度の小玉で、色は濃い紅色です。
- ・糖度は13%程度、酸度は0.35%程度で、甘みが強く、食味のよいりんごです。



② 早生種

- ア 未希ライフ：(母親) 千秋×(父親) つがる
- ・収穫時期 8月下旬～9月上旬
 - ・青森県弘前市の工藤清一氏が育成し、平成4年に品種登録されました。
 - ・250グラム程度で、色は紅色で縞が入ります。
 - ・果肉はやや硬めで果汁が多く、甘酸適和です。



- イ つがる：(母親) ゴールデンデリシャス×(父親) 紅玉
- ・収穫時期 8月下旬～9月上旬
 - ・青森県りんご試験場（現：(地独) 青森県産業技術センターりんご研究所）が育成し、昭和50年に品種登録されました。
 - ・300グラム程度で、色は紅色で縞が入ります。
 - ・果肉は硬めでち密、多汁、甘味が強く食味良好です。



③ 中生種

- ア トキ：(母親) 王林×(父親) ふじ
- ・収穫時期 9月末～10月上旬

- ・青森県五所川原市の故 土岐傳四郎氏が育成し、平成 16 年に品種登録されました。
- ・350 グラム程度で、色は黄色です。
- ・果汁が多く、甘酸適和で、香り・食味が良好です。



イ 早生ふじ：ふじの枝変わりや交雑実生

- ・収穫時期 10 月上旬
- ・外見、食味とも「ふじ」に似ていますが、「ふじ」より約 1 か月程度早く収穫できる、「ふじ」の早熟系統です。
- ・「ひろさきふじ」「紅将軍」「昂林」「涼香の季節」「ほのか」「やたか」などがあります。



ウ 世界一：(母親) デリシャス×(父親) ゴールデンデリシャス

- ・収穫時期 10 月中旬
- ・青森県りんご試験場（現：(地独) 青森県産業技術センターりんご研究所）が育成し、昭和 49 年に学会発表されています。
- ・500 グラム程度でとても大きく目立ちます。
- ・円錐形で、色は紅色で縞が入ります。
- ・果肉はやや硬め、ち密、多汁で、微酸と甘味があります。



エ 千雪：(母親) 金星×(父親) マヘ7（マヘ7：(印度)×ゴールデンデリシャス）×レッドゴールド）

- ・収穫時期 10 月中～下旬
- ・青森県りんご試験場（現：(地独) 青森県産業技術センターりんご研究所）が育成しました。
- ・300 ～ 350 グラム程度で濃い紅色です。
- ・糖度は 15% 程度、酸度は 0.3% 程度で、芳香があり甘味です。
- ・生食のほか、果肉が変色しにくいいため、サラダや加工用としても需要が見込めます。



オ 陸奥：(母親) ゴールデンデリシャス×(父親) 印度

- ・収穫時期 10 月中旬～11 月上旬
- ・青森県苹果試験場（現：(地独) 青森県産業技術センターりんご研究所）が育成し、昭和 24 年に品種登録されました。
- ・430 グラム程度と大玉です。
- ・色は無袋果が黄緑色、有袋果が紅色です。
- ・果肉は硬めで食味良好です。
- ・芳香があり、加工適性が高いです。



④ 晩生種

ア 星の金貨：(母親) ふじ×(父親) 青り 3 号

- ・収穫時期 10 月下旬～11 月上旬
- ・青森県りんご試験場（現：(地独) 青森県産業技術センターりんご研究所）が育成し、平

成 16 年に「あおり 15」として品種登録されました。

- ・ 250 ～ 300 グラム程度と手頃な大きさで、色は黄色です。
- ・ 糖度は 15 ～ 16 % 程度、酸度は 0.3 % 程度で甘く、貯蔵性に優れています。
- ・ 食感が良く、皮が薄いので丸かじりにも最適です。



イ 北斗：(母親) ふじ× (父親) 不明

- ・ 収穫時期 10 月下旬～ 11 月上旬
- ・ 青森県りんご試験場（現：(地独) 青森県産業技術センターりんご研究所）が育成し、昭和 58 年に品種登録されました。
- ・ 400 グラム程度で、色は紅色で縞が入ります。
- ・ 果肉はち密、果汁が極めて多く、甘酸適和で食味良好です。
- ・ 蜜が多く入ります。



ウ ふじ：(母親) 国光× (父親) デリシャス

- ・ 収穫時期 10 月下旬～ 11 月中旬
- ・ 農林省園芸試験場東北支場（青森県藤崎町、現：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹茶業研究部門（岩手県盛岡市））が育成し、昭和 37 年に命名・登録されました。
- ・ 350 グラム程度で、色は、無袋果では紅色で縞が入り、有袋果では鮮やかな紅色となります。
- ・ 果肉はやや粗く、果汁が極めて多く、甘酸のバランスに優れ食味良好です。



エ 金星：(母親) ゴールデンデリシャス× (父親) デリシャス

- ・ 収穫時期 11 月上旬～ 11 月中旬
- ・ 青森県弘前市の佐藤肇氏が育成し、昭和 47 年に品種登録されました。
- ・ 350 グラム程度で、果点はやや粗いです。
- ・ 果肉は硬く、多汁で、甘味が強く味が濃厚です。
- ・ 色は無袋果が黄緑色、有袋果が淡い黄色です。



6. さいごに

収穫されたりんごは順次出荷されますが、「ふじ」のように貯蔵して翌年の 8 月まで出荷されるものもあり、年中、楽しむことができます。およそ 150 年間の歴史が築き上げ、世界一の技術に裏打ちされた品質を誇る青森りんごをぜひ御賞味ください。

県産品 PR キャラクター
決め手くん



決め手は、青森県産！